

令和7年度学校評価アンケート結果及び考察

飛島村立飛島学園

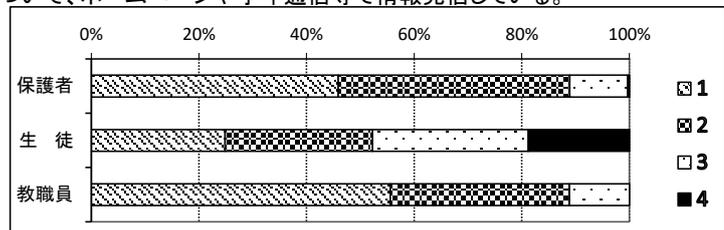
回答者	保護者（生徒一人につき一回答） ※回答率 78.2% 生徒（5年生以上対象） 教職員		
実施期間	令和7年12月11日～23日		
達成度	80%以上 A	50%以上 B	50%未満 C
	※回答の1「そう思う」、2「ほぼそう思う」を合わせた数値		

1: そう思う	2: ほぼそう思う	3: あまり思わない	4: 思わない
---------	-----------	------------	---------

学校・学年・学級経堂

- 質問 1 保護者 学校は、生徒や学年・学級の様子について、HPや学年通信等で情報発信している。
生徒 あなたは、学園のHPや学年通信を見ている。
教職員 学校は、生徒や学年・学級の様子について、ホームページや学年通信等で情報発信している。

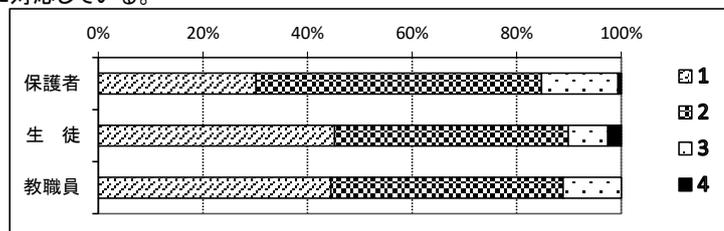
(%)	1	2	3	4	達成
保護者	45.9	43.0	10.8	0.3	A
生徒	24.9	27.4	28.9	18.8	B
教職員	55.6	33.3	11.1	0.0	A



〈考察〉 学校ホームページの定期的な更新や学年通信等の発行を通じ、生徒の活動状況を定期的に発信しています。保護者の皆様は定期的にHPを閲覧していただいております。学校生活への関心をもっていただいております。生徒は、学年通信等については見ているのですが、HPの閲覧についての割合が低くなっています。また声掛け等をし、周知に努めたいと思います。

- 質問 2 保護者 学校は、生徒の悩みや相談に丁寧に対応している。
生徒 先生たちは、悩みや相談をしっかりと聞いてくれる。
教職員 学校は、生徒の悩みや相談に丁寧に対応している。

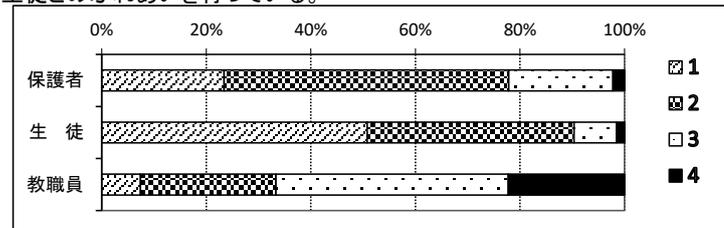
(%)	1	2	3	4	達成
保護者	30.2	54.6	14.6	0.6	A
生徒	45.2	44.7	7.6	2.5	A
教職員	44.4	44.4	11.1	0.0	A



〈考察〉 保護者評価、生徒評価、教職員評価がともにAとなりました。日頃生徒の様子を見とりながら、適切な声かけ等を重ね、生徒に寄り添いながら対応することができたからだと考えております。しかし、保護者の方の中には、満足されていないことがわかりました。今後も、学校の課題として、より丁寧に対応していくことに努めます。教員自身の自己評価においても、11%ほどの職員ができていないと感じています。働き方改革を推進し、教師がゆとりをもち生徒と関わることができるようにしていきたいと思っております。

- 質問 3 保護者 教員は、ゆとりをもって、学習指導や生徒とのふれあいを行っている。
生徒 先生たちは、ゆとりをもって授業をしたり、生徒の皆さんと関わったりしている。
教職員 教員は、ゆとりをもって、学習指導や生徒とのふれあいを行っている。

(%)	1	2	3	4	達成
保護者	23.4	54.4	19.9	2.2	B
生徒	50.8	39.6	8.1	1.5	A
教職員	7.4	25.9	44.4	22.2	C

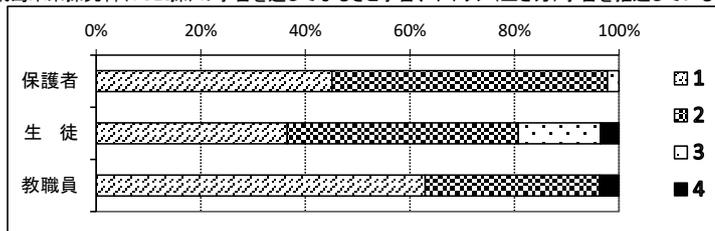


〈考察〉 教職員がゆとりをもって生徒と関わることができているかという点について、保護者、生徒、教職員による評価の差異が顕著に表れました。生徒はA評価となり、教職員が多忙中でも生徒の前ではそれを感じさせず、安心感を持って相談できる環境を維持できていることは大きな成果です。一方で、保護者評価はBとなり、よりきめ細かな連携や迅速な対応を求める期待が示されています。最も注視すべきは、教職員自身の自己評価がC評価である点です。今後は、生徒が感じている安心感を損なうことなく、教職員が真の意味でゆとりを持って生徒と向き合える持続可能な教育体制の構築に取り組んでいきたいと思っております。

未来を切り拓く力の育成

- 質問 4 保護者 学校は、生徒の体験活動や外部講師による授業、飛鳥未来探究科(TOBI探)の活動を通してふるさと学習、キャリア(生き方)学習を推進している。
 生徒 体験活動やゲストティーチャーなどの授業は、飛鳥未来探究科(TOBI探)、キャリア(生き方)学習の参考になっている。
 教職員 学校は、生徒の体験活動や外部講師の授業、飛鳥未来探究科(TOBI探)の学習を通してふるさと学習、キャリア(生き方)学習を推進している。

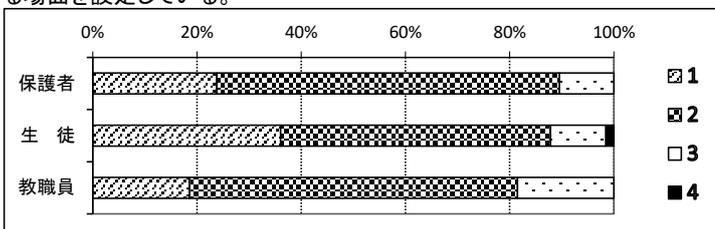
(%)	1	2	3	4	達成
保護者	45.1	52.7	2.2	0.0	A
生徒	36.5	44.2	15.7	3.6	A
教職員	63.0	33.3	0.0	3.7	A



〈考察〉 保護者評価、生徒評価、教職員評価がともにAとなりました。『飛鳥未来探究科(TOBI探)』を核とした学習活動において、外部講師を招いた専門性の高い授業や多彩な体験活動を通じ、生徒たちは地域社会の実情に触れ、自らの生き方を考える貴重な機会を得ています。学校運営協議会の皆様を中心に地域と連携しながら、質の高い学びを継続的に提供できていると確信しています。今後も『TOBI探』をさらに推進していきたいと思ひます。

- 質問 5 保護者 学校は、生徒自身の力で課題解決する場面を設定している。
 生徒 授業や飛鳥未来探究科(TOBI探)、行事において、自分たちで課題を解決していこうとしている。
 教職員 学校は、生徒自身の力で課題解決する場面を設定している。

(%)	1	2	3	4	達成
保護者	23.8	65.7	10.5	0.0	A
生徒	36.0	51.8	10.7	1.5	A
教職員	18.5	63.0	18.5	0.0	A

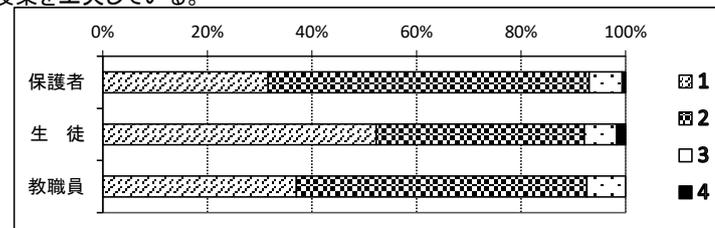


〈考察〉 保護者評価、生徒評価、教職員評価がともにAとなりました。学園では、授業を中心に生徒自身が問いを立て、解決策を導き出すプロセスを重視した教育活動を推進しています。その結果、学園全体で、生徒の主体性を引き出す場面設定が実践できる場が設定できていると考えております。今後も、生徒が試行錯誤を繰り返しながら成功体験を積み重ね成長できるよう、さらなる場の充実を図っていききたいと思ひます。

確かな学力の定着

- 質問 6 保護者 教員は、ICTを効果的に活用した授業を行っている。
 生徒 タブレットや電子黒板が活用され、授業は分かりやすい。
 教職員 教員は、ICTも活用し、わかりやすい授業を工夫している。

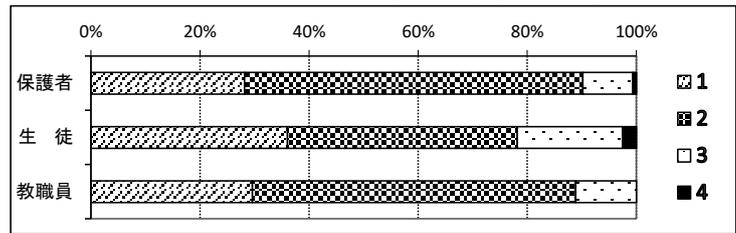
(%)	1	2	3	4	達成
保護者	31.6	61.4	6.3	0.6	A
生徒	52.3	39.8	6.2	1.7	A
教職員	37.0	55.6	7.4	0.0	A



〈考察〉 保護者評価、生徒評価、教職員評価がともにAとなりました。一人一台端末を基盤としたICTの活用が、単なる代替手段から「主体的・対話的で深い学び」を支える不可欠なツールへと深化してきたことがわかりました。今後も、最新のテクノロジーを柔軟に取り入れながら、ICT活用の『質』をさらに高め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けていききたいと思ひます。

- 質問7 保護者 教員は生徒が自ら学ぶこと(課題をもつ、めあてをもち話し合う、振り返る)を意識した授業を行っている。
 生徒 あなたは「課題をつかむ」「めあてをもつ」「話し合う」(ペアやグループ活動など)「振り返り、次の課題をもつ」ということを意識して授業に参加している。
 教職員 教員は、「課題を見通し」「対話し(ペアやグループ活動)」「振り返り、次の課題をつかむこと」を意識した授業展開を行っている。

(%)	1	2	3	4	達成
保護者	28.2	62.0	9.2	0.6	A
生徒	36.0	42.1	19.3	2.5	B
教職員	29.6	59.3	11.1	0.0	A

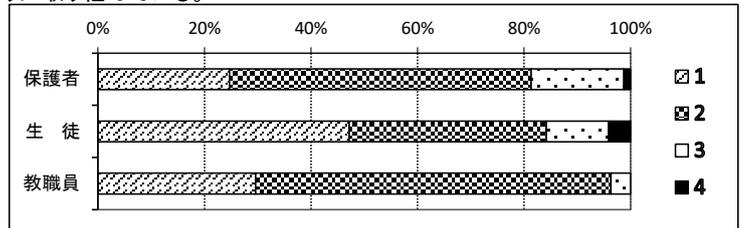


〈考察〉 本年度も、課題設定から対話、振り返りを大切に、授業改善に取り組んできました。その結果、保護者および教職員の自己評価ではA評価となりました。一方で、生徒はB評価に留まりました。教員側が意図的に設定した『めあて』や『話し合い』の場面が、生徒にとってはまだ『与えられた活動』と感ぜられていたり、自身の成長を実感できる深い『振り返り』にまで至っていないかたることが考えられました。今後は、生徒が『自ら学んでいる』という実感をより強く持てるよう、次年度にむけて取り組んでいきたいと思ひます。

豊かな心の醸成

- 質問8 保護者 学校は、いじめのない学年・学級づくりに取り組んでいる。
 生徒 あなたは、人の嫌がることをしたり、言ったりしていない。
 教職員 学校は、いじめのない学年・学級づくりに取り組んでいる。

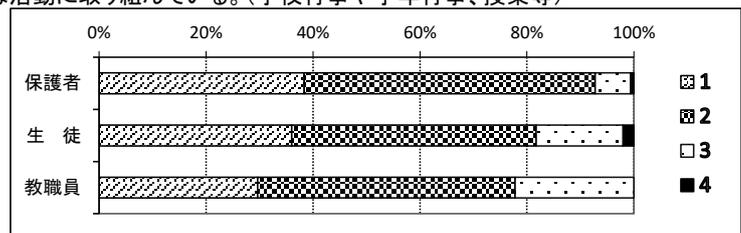
(%)	1	2	3	4	達成
保護者	24.7	56.6	17.4	1.3	A
生徒	47.2	37.1	11.7	4.1	A
教職員	29.6	66.7	3.7	0.0	A



〈考察〉 保護者評価、生徒評価、教職員評価がともにAとなりました。一方で、保護者評価ではA評価を維持しつつも、『そう思わない・思わない』と回答している方もいらっしゃる事実を重く受け止めています。今後は、生徒への定期的なアンケートや面談などを通し、いじめの早期発見・即時対応に務めていきます。また、学園の取組や対応などを丁寧にお伝えし、『いじめを許さない、見逃さない学園』を目指して、全職員で体制を整えていきたいと思ひます。

- 質問9 保護者 お子様は、他者理解に努め、さまざまな活動に取り組んでいる。(学校行事や学年行事、授業等)
 生徒 あなたは、周りの生徒のよさを見つけようとしている。
 教職員 生徒は、他者理解に努め、さまざまな活動に取り組んでいる。(学校行事や学年行事、授業等)

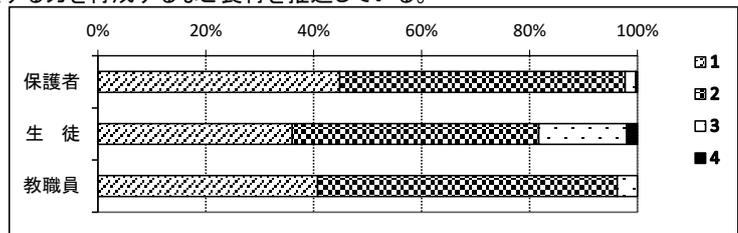
(%)	1	2	3	4	達成
保護者	38.4	54.4	6.6	0.6	A
生徒	36.0	45.7	16.2	2.0	A
教職員	29.6	48.1	22.2	0.0	B



〈考察〉 本項目において、生徒・保護者のアンケートでは共にA評価となり、生徒が互いを尊重しながら充実感を持って活動できていることがわかりました。ご家庭においても、活動を通じた人間的な成長を肯定的に捉えていただいていることは大きな成果となります。一方で、教職員の自己評価はB評価となりました。これは、生徒たちが『協力して活動する』段階には到達しているものの、さらなる伸びしろがあるという認識によるものです。今後は、現在の良好な関係性を基盤に、より高い次元での他者理解と主体的な活動を目指し、指導の質を一層高めていきたいと思ひます。

- 質問 10 保護者 学校は、食に関する知識や食を選択する力を育成するなど食育を推進している。
 生徒 食育通信などで食について学び、苦手な食べ物も食べるように努力している。
 教職員 学校は、食に関する知識や食を選択する力を育成するなど食育を推進している。

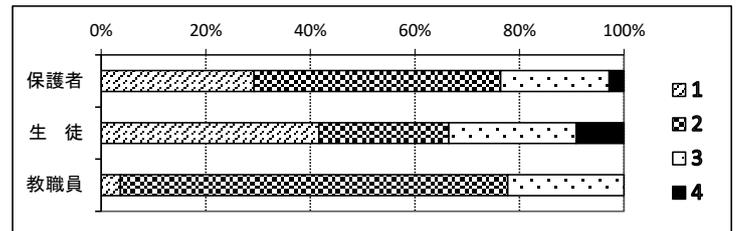
(%)	1	2	3	4	達成
保護者	44.8	52.9	1.9	0.3	A
生徒	36.0	45.7	16.2	2.0	A
教職員	40.7	55.6	3.7	0.0	A



〈考察〉 保護者評価、生徒評価、教職員評価がともにAとなりました。減農薬野菜給食や、栄養教諭による専門的な指導等が、食育指導に関する保護者の皆様の安心感と信頼に繋がっています。しかし、約16%の生徒が「あまり思わない」と評価しています。今後は、生徒自身が食生活を振り返り、生涯にわたって健康を自己管理できる『食の選択力』が育めるよう、指導を工夫していきたいと思ひます。

- 質問 11 保護者 お子様は、夢や希望をもっている。
 生徒 あなたは、夢や希望をもっている。
 教職員 生徒は、夢や希望をもっている。

(%)	1	2	3	4	達成
保護者	29.2	47.2	20.8	2.8	B
生徒	41.6	24.9	24.4	9.1	B
教職員	3.7	74.1	22.2	0.0	B

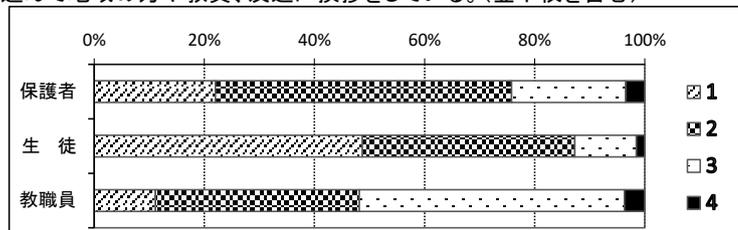


〈考察〉 保護者評価、生徒評価、教職員評価がともにBとなりました。日々の学習や行事、キャリア学習を通じて、自身の進路に関心を持ち、真面目に取り組む姿は多くの生徒に見られます。しかし、中には具体的な将来像を描ききれなかったり、自分の可能性に自信をもちきれなかったりする生徒も一定数存在しています。今後は、キャリア教育を推進し、生徒が自分自身の未来にワクワクし、高い志を持って挑戦できる環境づくりを推進していきたいと思ひます。

かかわる力の育成

- 質問 12 保護者 お子様は、学園生活において自分から進んで地域の方や教員、友達に挨拶をしている。(登下校時を含む)
 生徒 あなたは、自分から進んで地域の方や先生、友達に挨拶をしている。(登下校を含む)
 教職員 生徒は、学園生活において自分から進んで地域の方や教員、友達に挨拶をしている。(登下校を含む)

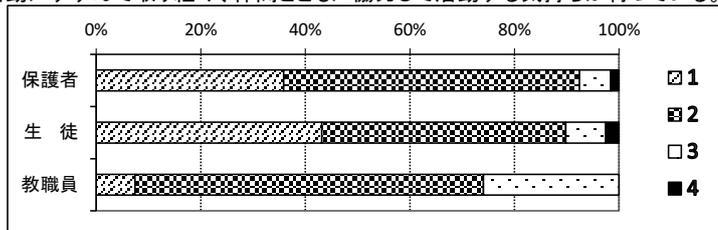
(%)	1	2	3	4	達成
保護者	22.0	53.8	20.8	3.5	B
生徒	48.7	38.6	11.2	1.5	A
教職員	11.1	37.0	48.1	3.7	C



〈考察〉 生徒、保護者、教員三者との間にまだ認識のずれが生じています。教職員のC評価については、4月よりもあいさつができるようになりましたが、さらに広がってほしいという願ひをもっている教員もいるためです。今年度は、9年生代表のあいさつ標語を入れたポケットティッシュを作成し、ふるさとフェスタで9年生ボランティアと学校運営協議会(あすとび)委員の皆さんに配付していただきました。学園から広がるあいさつをこれからも取り組んでいきたいと思ひます。

- 質問 13 保護者 お子様は、授業や係、当番活動や探究活動にすすんで取り組み、仲間とともに協力して活動する気持ちが育っている。
 生徒 あなたは授業や係、当番活動や探究活動にすすんで取り組み、仲間とともに協力して活動している。
 教職員 生徒は、授業や係、当番活動や探究活動にすすんで取り組み、仲間とともに協力して活動する気持ちが育っている。

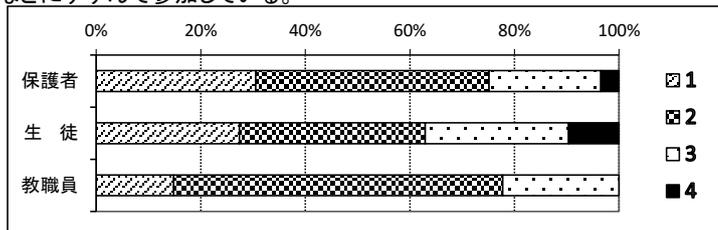
(%)	1	2	3	4	達成
保護者	35.8	56.6	6.0	1.6	A
生徒	43.1	46.7	7.6	2.5	A
教職員	7.4	66.7	25.9	0.0	B



〈考察〉 本項目においては、生徒、保護者評価がAとなりました。子どもたちが様々な活動に仲間と協力して取り組んでいることがよくわかります。一方で教職員評価はBとなり、さらなる高みを目指していきたい思いが表れていると思います。まだ伸びしろがあると思いますので、次年度に向け取り組んでいきたいと思います。

- 質問 14 保護者 お子様は、地域の行事やスポーツ活動などにすすんで参加している。
 生徒 あなたは、地域の行事やスポーツ活動などにすすんで参加している。
 教職員 生徒は、地域の行事やスポーツ活動などにすすんで参加している。

(%)	1	2	3	4	達成
保護者	30.5	44.7	21.4	3.5	B
生徒	27.4	35.5	27.4	9.6	B
教職員	14.8	63.0	22.2	0.0	B

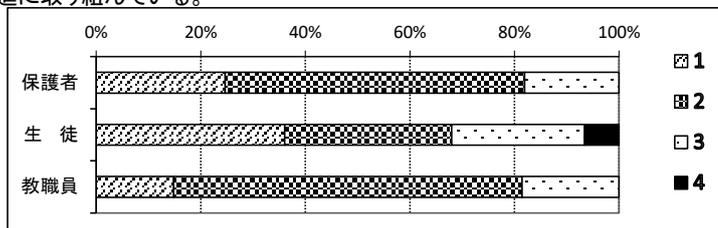


〈考察〉 3者ともB評価となりました。地域の行事やスポーツ活動に参加している生徒もいますが、その他の活動に参加している生徒もいます。地域とのつながりを感じながら、地域の一員として活躍できる生徒を今後も育成していきたいです。

健やかな体づくり

- 質問 15 保護者 学校は、生徒の健康・体力の保持増進に取り組んでいる。
 生徒 あなたは、自分の体重や視力など健康状態を知るとともに、体力をつけることをしている。
 教職員 学校は、生徒の健康・体力の保持増進に取り組んでいる。

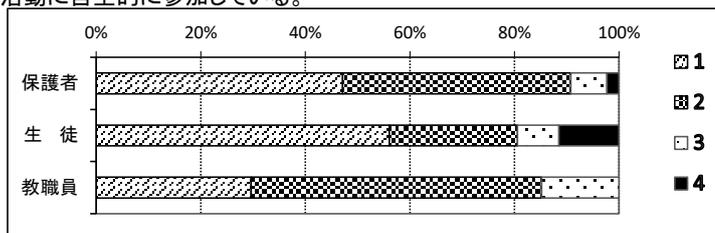
(%)	1	2	3	4	達成
保護者	24.7	57.3	18.0	0.0	A
生徒	36.0	32.0	25.4	6.6	B
教職員	14.8	66.7	18.5	0.0	A



〈考察〉 健康・体力の保持増進の取組に対し、ご家庭からA評価をいただけていることは、教育活動の大きな励みとなります。一方、生徒評価が「B」である点は、現状に満足せず「もっと体力をつけたい」「生活習慣を改善したい」という向上心の表れとも受け止めています。これからも、生徒一人ひとりが自身の体の変化を実感し、楽しみながら健康増進に取り組めるよう、指導の工夫を継続していきたいです。

- 質問16 保護者 お子様は、休日クラブ活動をはじめ、部活動に自主的に参加している。
 生徒 あなたは、休日クラブ活動をはじめ、部活動に自主的に参加している。
 教職員 生徒は、休日クラブ活動をはじめ、部活動に自主的に参加している。

(%)	1	2	3	4	達成
保護者	47.1	43.7	6.9	2.3	A
生徒	56.1	24.5	7.9	11.5	A
教職員	29.6	55.6	14.8	0.0	A



〈考察〉 3者とも評価はAとなりました。専門指導員の指導により、生徒の技術向上が現れており、それが活動への意欲と自己肯定感の向上につながっています。また、保護者の皆様にとっても、専門指導員による質の高い指導は、安心感につながると感じています。また、教職員の業務負担が大幅に軽減されています。今後も、村教育委員会のご支援を受けながら、部活動の在り方に付いて検討を重ねていきたいと思ひます。

＜自由記述欄から＞

「日頃より、先生方には手厚いご指導をいただき感謝しております。今後ともよろしくお願ひ致します。」「いつも子どもたちと真剣に向き合ってもらい安心して学校生活が送れています」「いつも子どもたちを一番に考え様々な取組をありがとうございます。」など、励みとなるご意見をありがとうございます。こうした声をより多く届けていただけるよう教職員一同いっそう努力していきたいと思ひます。

【行事日程について】

今年度の文化祭は、義務教育学校らしく学園文化祭とし、1～9年生で実施をしました。また、例年通り体育祭と文化祭を連日にわたり開催しました。お忙しい中全校の保護者の皆様に両日にわたり参観していただきました。この点に関しまして、保護者の皆様からは、「連日開催ではなく、開催日を分けてほしい」というご意見をいただきました。また、「生徒の負担にならないようにしてほしい」というご意見もいただきました。次年度に向け日程や内容等を精査し、より良い行事の在り方について検討していきます。

【生徒指導面について】

「様々な対応をしていただき感謝しております」という声をいただいた一方で、「先生に相談したが改善されなかった」という切実な声も寄せられていました。

今後は、担任だけではなく、学年主任や相談部署が組織的に関わり、事後経過を本人へ丁寧にフィードバックする体制を再構築し、「相談してよかった」と実感できる、心理的安全性の高い学校づくりを目指してまいりたいと思ひます。

後期課程生徒の自転車通学時のマナーについて、様々なご意見をいただきました。特に、一時停止をしないという状況について、地域の方からもご心配の声をいただいています。交通ルールの軽視は命に関わる問題です。指導員の有無にかかわらず、生徒自ら自分の命を守るための判断ができるように交通安全指導を進めていきます。

【授業・学校生活について】

「いつも温かい指導をありがとうございます」という声をいただいている一方で、「子どもたちがしっかり授業を受けられているか、学校生活に取り組めているか心配になることがあります」「先生と子どもたちが多くかかわる授業を見る機会が少ない」「教科によっては、遅れていることがあり不安です」というご意見をいただきました。また、「もう少し優しい言葉をかけてほしい」というご意見もありました。いただいたご意見を真摯に受け止め、子どもたちが安心して学べるように、日々の授業改善、指導体制の見直しに努めていきます。

また、「ホームページの掲載件数が学年によって異なる」というご意見をいただきました。これにつきましても、次年度以降検討をしていきます。